

2024年3月期1Q決算に関するQ&A（要旨）

この質疑応答集はスモールミーティングなどで、投資家の皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

Q1. 1Qの業績について、映像制作技術サービス（海外）でのE2Eサービス海外の状況について教えてください

A 海外については、のれん等償却前営業利益ベースにて増収増益となりました。主な要因は、劇場映画で公開される作品数の増加に伴い、デジタルシネマ向けのサービスや予告編制作サービスが伸長したためです。また、ローカライズ（字幕・吹替）の需要鈍化が想定より緩やかであり、前年並みであったことも貢献し、当社見通しに対してほぼ想定どおりに進捗しています。

* E2E サービス海外に属する海外子会社の決算期は12月で、1Qは現地2023年1月～3月の数値を取り込んでいます。

Q2. ハリウッドのストライキの影響はありますか？

A 何らかの影響があるリスクはありますが、現時点では見込んでおりません。具体的にはストライキが長引くことにより、映画の製作自体が遅延し、その影響にて当社のサービスも納品が期ズレするなどのリスクが考えられます。

Q3. 映像コンテンツが大きく増収増益になった理由を教えてください

A 1Qは劇場映画や動画配信事業者向けの作品において、前年に比べて大型の作品を多く納品したため大幅増収となりました。増益理由としては、アニメーション作品の制作において粗利率が向上していることや、ライトノベル「薬屋のひとりごと」の販売が好調であったことなどが挙げられます。

Q4. ライトノベル「薬屋のひとりごと」の販売状況はどうでしたか？今後の展開に期待できますでしょうか？

A 今年2月に発刊した「薬屋のひとりごと」最新刊13巻は、10月からTVアニメ化が決定したこともあり、1Qにおいて見込み以上に販売好調となりました。今後もTVアニメとの相乗効果により継続して好調が続くことを期待しております。

Q5. 映像システムのハイスピードカメラの業績状況はいかがですか？

A 前年下期から半導体不足影響の緩和が落ち着き、生産が回復しています。自動車関連向けも含めて受注も堅調に推しています。1Qについては増収増益を達成しました。

以上